

2022年度 幼保連携型認定こども園正和幼稚園（4月～3月：2023年5月現在） 事業報告書

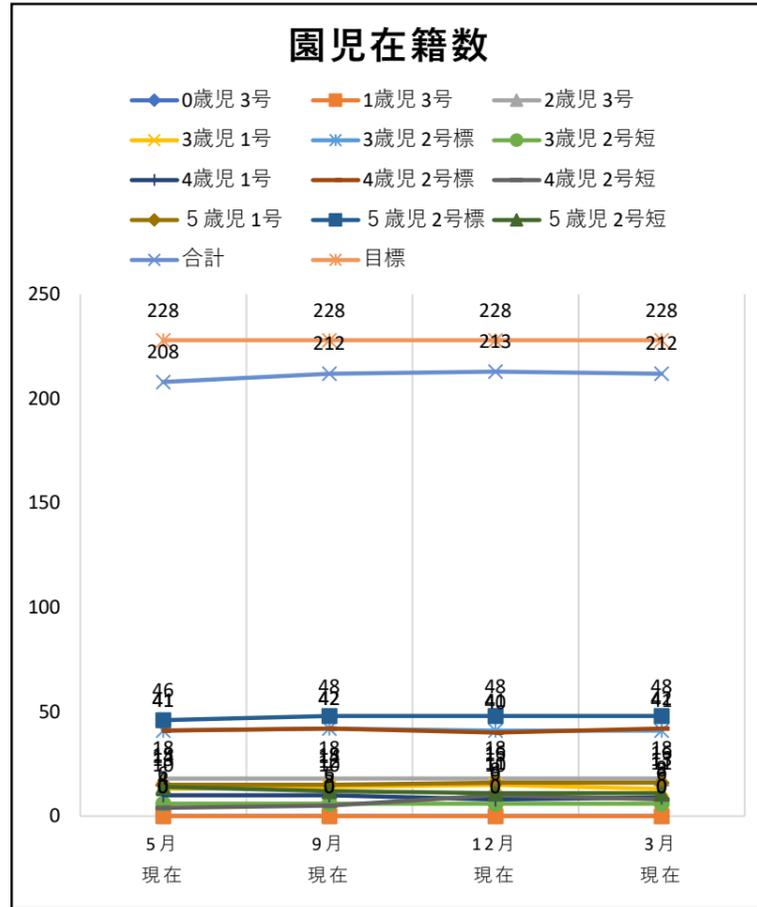
● 1年間レビュー

年間を通して、入退園が繰り返しあり、在園児数は大幅には変わらなかった。在園中、町田市外への引っ越しをされた以降も、継続して在籍するケースが多かった。（前橋市、座間市、八王子市、稲城市、相模原市、渋谷区）
 学童一時預かりは、平日の利用は少ないので利用につながるよう、土曜日にイベントとしてわら納豆づくり体験や団地キャラバン等を行い、積極的に受け入れていく努力をした。来年度もイベントなどを企画し、利用しなくなる状況をつくりだしていく。2022年度の全卒園児に学童の利用案内をお渡しし、学校の長期休みに利用したいというお声をたくさんいただいている。
 一般型一時預かりの利用を増やしているよう工夫をしていったところ、後半には大幅に利用者が増えた。また入園決定者に対しての利用しやすい告知をし、前倒して入園やプレキンダーを始められる方が多かった。

● 園児在籍数

全体的に、定員充足率が高かった。入園されても引っ越しなどが目立ち、数字的には大幅な増加にはつながらなかった。2023年度入園説明会や園見学に来たことをきっかけに、2023年度4月からではなく、前倒して入園をしてくれる方が増えた。在園中、町田市外への引っ越しをされた以降も、継続して在籍するケースが多かった。（前橋市、座間市、八王子市、稲城市、相模原市、渋谷区）

年齢/認定区分		目標設定	5月現在	9月現在	12月現在	3月現在
0歳児		0	0	0	0	0
1歳児	3号	18	0	0	0	0
2歳児		18	18	18	18	18
3歳児	1号	18	13	14	15	13
3歳児	2号標	57	41	42	41	41
3歳児	2号短		6	6	6	6
4歳児	1号	12	10	10	8	9
4歳児	2号標	48	41	42	40	42
4歳児	2号短		4	5	10	8
5歳児	1号	15	15	15	16	16
5歳児	2号標	60	46	48	48	48
5歳児	2号短		14	12	11	11
合計		228	208	212	213	212
目標		228	228	228	228	228

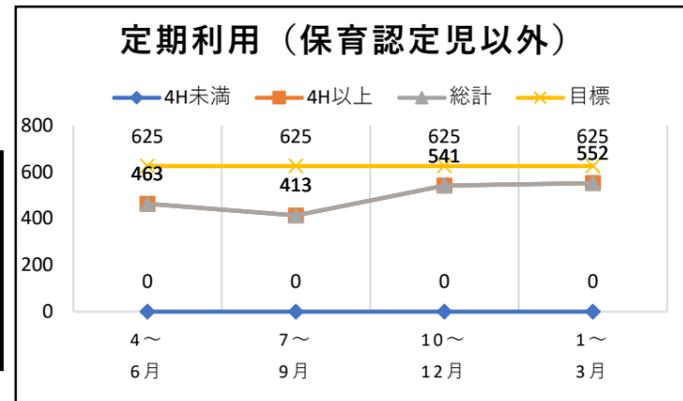


● 定期利用（保育認定児以外）

定期利用される方が3号児に移ったり、利用をやめたりするケースが見られたが、新しく利用を開始する方もいたため、人数的には大きな変動はなかった。定員には満たなかったため、さまざまな需要に対応していくようにしていく。

※数字は延べ人数を記入

年齢/実績数		目標設定	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
合計	4H未満	0	0	0	0	0	0
	4H以上	2500	463	413	541	552	1969
合計		2500	463	413	541	552	1969
目標		2500	625	625	625	625	2500

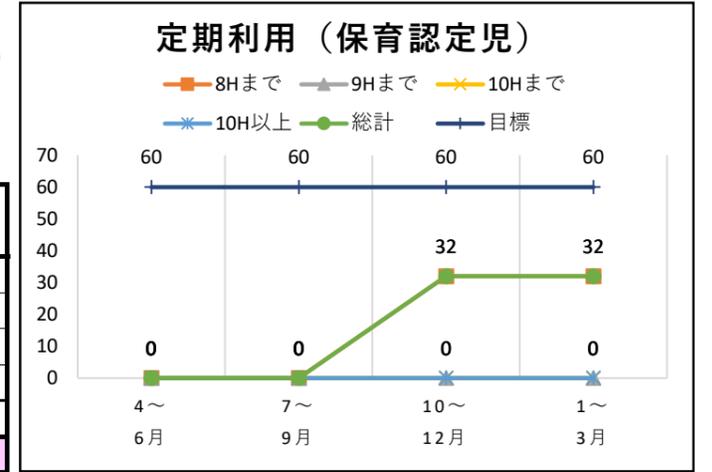


● 定期利用（保育認定児）

3号児が定員となり、入所待ちの2歳児1名保育認定児として定期利用されていた方は、2023年度の入園につながった。

※数字は延べ人数を記入

年齢/実績数		目標設定	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
合計	8Hまで	240	0	0	32	32	64
	9Hまで	0	0	0	0	0	0
	10Hまで	0	0	0	0	0	0
	10H以上	0	0	0	0	0	0
合計		240	0	0	32	32	64
目標		240	60	60	60	60	240

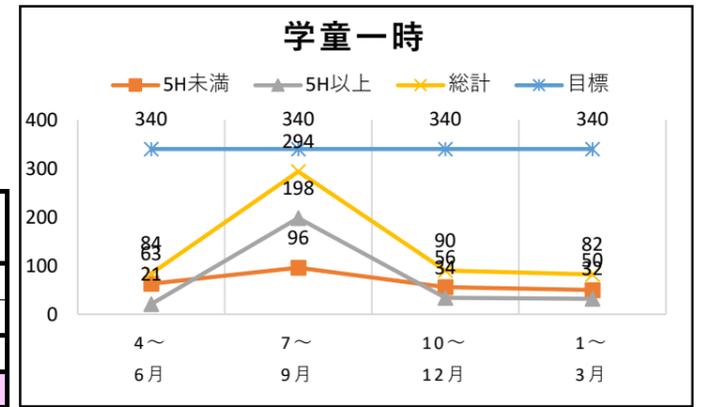


● 学童一時

学童一時預かりは、平日の利用は少ないので利用につながるよう、土曜日にイベントとしてわら納豆づくり体験や団地キャラバン等を行い、積極的に受け入れていく努力をした。来年度もイベントなどを企画し、利用しなくなる状況をつくりだしていく。2022年度の全卒園児に学童の利用案内をお渡しし、学校の長期休みに利用したいというお声をたくさんいただいている。2022年度は目標値には到達しなかった。目標値自体を再検討する必要がある。

※数字は延べ人数を記入

年齢/実績数		目標設定	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
合計	5H未満	360	63	96	56	50	265
	5H以上	1000	21	198	34	32	285
合計		1360	84	294	90	82	550
目標		1360	340	340	340	340	1360

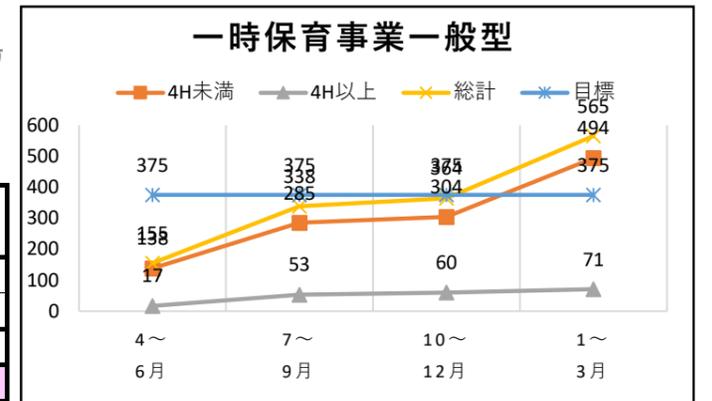


● 一時保育事業 一般型

目標値である1500には到達しなかった。理由として年度初めの職員の意識の持ち方の違いがあった。一般型一時預かりの利用を増やしていけるよう工夫をしていったところ、後半には大幅に利用者が増えた。今年度初めてアウトリー子型ができるようになり、やり方の模索があった。

※数字は延べ人数を記入

年齢/実績数		目標設定	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
合計	4H未満	1200	138	285	304	494	1221
	4H以上	300	17	53	60	71	201
合計		1500	155	338	364	565	1422
目標		1500	375	375	375	375	1500

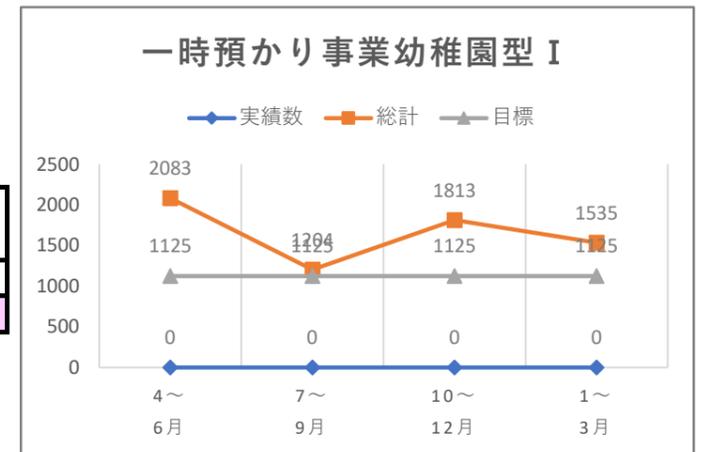


● 一時預かり事業 幼稚園I型

1号児の在籍数は少ないものの、一定の利用者がある。1号児の方で幼稚園I型の利用が増える園児は、2号児へ変更する傾向がある。

※数字は延べ人数を記入

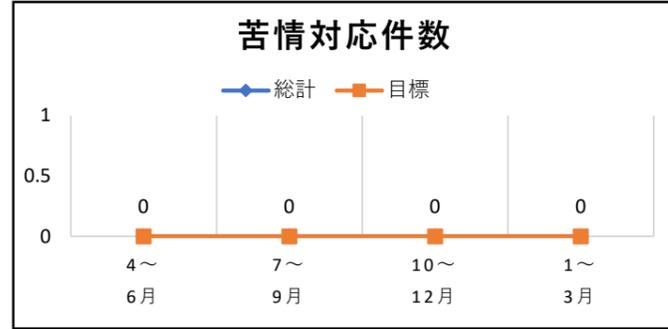
年齢/実績数		目標設定	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	合計
合計		2083	1125	1204	1813	1535	6635
合計		4500	1125	1125	1125	1125	4500



● 苦情対応件数について

苦情は特に受けていない。

件数	目標設定	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計
実績数						
総計	0	0	0	0	0	0
目標	0	0	0	0	0	0



● 職員在籍数

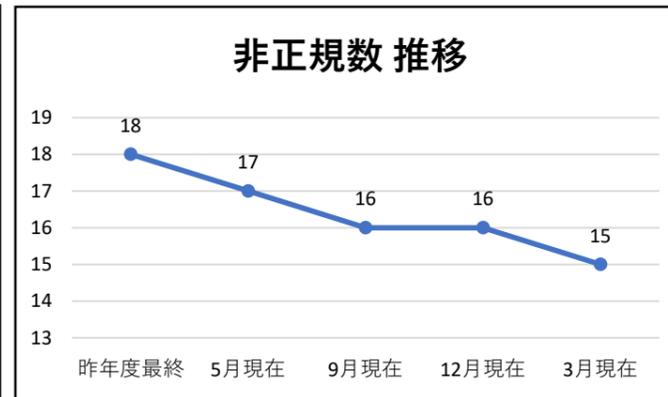
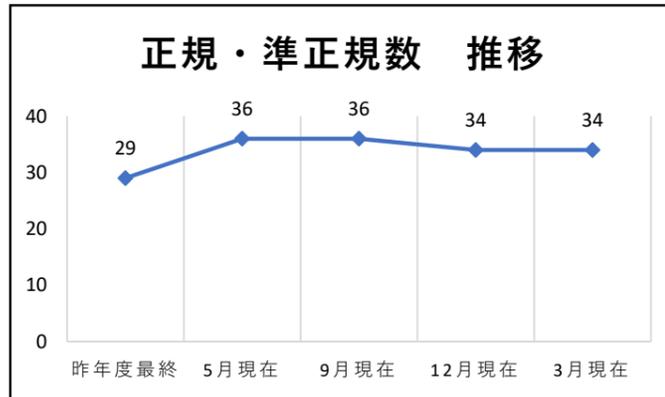
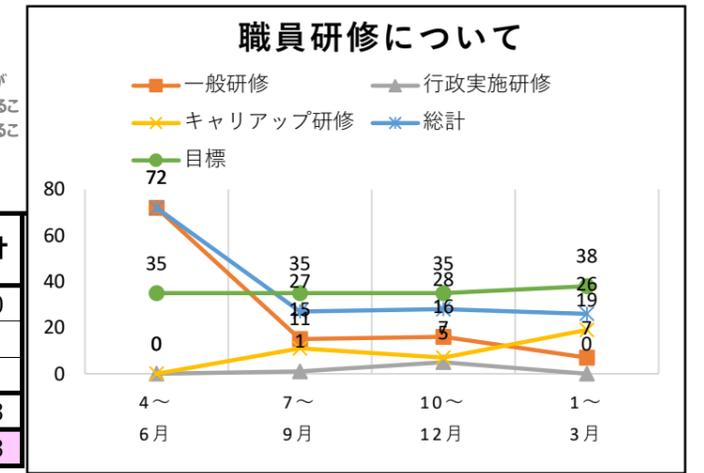
正規職員1名（9月育休復帰、時短1月～3月業務外病欠）が復職できず、2023年度をむかえる。インクルーシブ促進で1名雇用していたが、体調不良により、2月末で退職されている。

在籍者数	昨年度最終		5月現在		9月現在		12月現在		3月現在		備考
	正・準	非	正・準	非	正・準	非	正・準	非	正・準	非	
前月在籍者	30	18			36	17	36	16	34	16	
入職職員数	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	
退職職員数	2	1	0	0	0	1	0	0	0	1	
産休・育休数	3	0	2	0	1	0	1	0	1	0	
その他	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	
合計	29	18	36	17	36	16	34	16	34	15	
内派遣職員合計	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	

● 職員研修について

年間で立てた目標数の受講は達成することができた。キャリアアップ研修は一定数の正規職員が受講できているが、e-ラーニングの受講がすべて終わらず、演習対象者にならなかった職員もいることも課題である。その際に、演習が受けられない対象者リストがあがる前に、自ら状況を申告することが必要であるという認識を高める必要がある。

研修種別	目標設定	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計
一般研修	100	72	15	16	7	110
行政実施研修	3	0	1	5	0	6
キャリアアップ研修	40	0	11	7	19	37
総計	143	72	27	28	26	153
目標	143	35	35	35	38	143



● 各種活動のトピックス等

【海外とのオンライン交流】3歳児のご家庭から、ご兄弟がオーストラリアに在住しているとお知らせいただき、オンラインさせていただきました。生活の中で出会える動物の紹介や、よく食べられている「アボカドトースト」の実演、季節が日本と違い、夏であること等、実際のお話を聞くことで、3歳児の子どもたちにもとてもわかりやすく伝わったようで、終わった後もオンラインの中で発見したことを伝え合う姿が見られた。

また、サメーラ先生のご家族がいるアフガニスタンの小学校とも、オンライン交流をした。国の歌を歌って聴かせてくれたので、こちらも「こぎつね」を歌って交流をした。アフガニスタンはサメーラ先生の関係で園内でも給食や国の特徴を子どもたちも興味を多く持っているので、「今日の給食は何を食べましたか」など、積極的に質問をしようとする姿勢が見られた。他にも、アイルランドやモンゴルなど、様々な国に在住している方々とオンラインにて交流ができた。



【災害用クラッカーを使って】

年間を通してピザ窯やたき火での活動を多く行えた。災害用のクラッカーが賞味期限が近いということで地域よりたくさんいただき、マシュマロをたき火で焼いてクラッカーに挟んで食べる、ということを定期的に行えた。子どもたちも職員もたき火を使っての活動が身近となり、マシュマロだけでなく、「お肉焼きたい」「果物焼いてみる？」など、活動が広がっていった。

またクラッカーで何の料理できるかを子どもたちに投げかけたところ、5歳児がタルトの生地にすることが提案された。砕いて紙コップに入れて型を取り、さつまいものペーストを乗せてタルトを作った。また、ご家庭に持ち帰り、レシピを募集したところ、レアチーズケーキの土台にした、とストーリーパークにて共有いただいた。他にも様々なレシピをご提案いただき、保護者との交流にも広がった。

【わらを使ったほうき作り（田んぼ活動の一環）】

“わら細工職人”である「米俵保存会」代表者が園庭で園のわらをつかった作業風景をみせてくれました。子どもたちは、わらをきれいにするため根元の茶色い枯れた部分を取り除きました。取り除いた茶色い部分も肥料となるので、木の周りで作業。いねの穂先のくせをとるため、「水をつけるといいよ」「足で踏むとわらが柔らかくなるよ」といわれると、子どもたちは、すぐに井戸の水をたっぷり含め、足で踏んでいました。

酒井さんの職人技を見入る子どもたちも、「やってみたい！」と酒井さんに教えてもらって穂先でミニほうきをつくりはじめました。子どもたちも、一斉に手順を教わるのではなく、他の人が教えてもらっている姿をみたり、わからないところを隣にきいてみたり、雰囲気からも学びとって、まるで見て学びとる職人。もう少しわらがあるので、まだ続きがありそうです。

子どもたちは、田んぼ活動の年間の流れで、苗植え→稲刈り→脱穀→お釜でお米を炊いておむすびづくり→餅つき→お正月しめ縄をしてきました。そこに、今回、わら活用の専門的要素が加わりました。田んぼ活動は、自然からの恩恵すべてを使う究極のSDGs要素も入っていました。作業を直接は見えていない場合も、教えてもらった人が伝えあっていくことで、「せいわのいとなみ」はつづき、引き継がれていきます。

